俳人協会
岐阜県支部会報
第34号
発行者　大野　鵠士
発行所　俳人協会
岐阜県支部事務局
〒500-8211　岐阜市日野東8-8-3
横田義男　方
TEL・FAX 058-247-6552
振替口座　00870-9-77529

劇場化現象の陰で

俳人協会岐阜県支部長　大野　鵠士

令和二年を迎えました。新元号における初めての新年です。十二支も子で、新しい門出です。

新しいと言えば、俳句においても新しさは求められるところで、芭蕉は「新しみは俳諧の花」と述べ、虚子にも「新」についての言及が見られます。

ところでここ何年か、あの〝プレバト〟の俳句についてよく尋ねられました。皆、新鮮な印象を受けたと言うのです。ただ私は、ほとんど視聴していませんが、ラグビーなどのスポーツや、時には政治に関わる放送に通じる印象を受けました。

それは、地震の際に生じる液状化現象ならぬ、劇場化現象です。平成後期は、程度の差こそあれ、諸分野において劇場化という状況が見られた時代だったのでしょう。〝プレバト〟の俳句も、エンターテインメントの娯楽的な場に引き据えたことが新しい状況だったのであり、作品の新しさとは別です。

では、作品の真の新しさとは何か。答えを出すのはあなたであり、私です。ご健吟を祈ります。

去年今年を詠む

初旅は飛騨の高山次女の待つ　所　山花
乗鞍は師を恋ふ高嶺雪まとふ
十二月赤いネクタイ買ひにけり　佐藤をさむ
一行の添書うれし賀状かな
大年越山々は座に着きにけり　辻　恵美子
年の夜幼きころの寒さもが
いつ来てもいつものところ仏の座　岬　雪夫
喜寿米寿卒寿とそろひ初句会
初神楽雪に吸はれて届かざり　小鳥　幸男
飛騨鰤の糶られて所詮半身かな
光年といふ旅路を今に初明り　宮川　典夫
初御空性善説を信じをり
アーティストやめて俳人年移る　今津　大天
妻の目となつて見せたや初山河
ステンレスの電車疾走初日影　大野　鵠士
カフェラテにさへ描かれて嫁が君
神木の梢ひろがる初御空　荻原　正三
初護摩の最前列に膝そろへ
干柿を揉みやはらかき指の腹　藤田真木子
猪喰うてをんな饒舌白障子
ひび割れの芯に届きて鏡餅　横田　義男
乱取の組手まちまち初稽古
栞紐すいと伸ばして新日記　足立　賢治
すこやかに爪の伸びをり初湯殿
春着の子乗せて小島の渡船かな　渡辺　純枝
もう母の居ぬ熊野へと初の旅
体重を気にしつつ食ぶ三ケ日　加藤　忠美
初風呂や湯を惜しまずに溢れさす
元旦や八十路の年の始まれる　小瀬千恵子
大旦振袖の孫正座せり
年の火の大きく爆ぜて去年今年　後藤　和朗
雪の伊吹山吊り上げてをり初御空
初晴や誓ひ新たに年女　寺田　好子
響き合ふ箏と三弦淑気満つ
歩道橋よりわが町の初景色　透　乙美
淑気満つ古き社の楠大樹
床蹴つて神馬ことほぐ今朝の春　長野美代子
くおんくおん刻流れゆく除夜の鐘
この星に永久ありや初鏡　瀬尾　千草
若水にて淹るる珈琲苦味よし
怯まずに前へと決めし去年今年　森﨑　義道
去年今年仏恩覚ゆる齢かな
子に渡す望遠鏡の初景色　小森　広司
初明り戸口の盛塩かがやける
箱書は明治でありぬ雑煮椀　富田　澄江
年賀客スマホに富士を納めきし
天地のはざまに生るる初日影　小野木武守
天井の足音はるか嫁が君
月映す川に沿ひゆく恵方道　矢田　邦子
襖ごし赤子の声や初句会

「鵜供養会」・鵜供養俳句大会

令和元年十月十五日に閉幕した長良川の鵜飼。シーズン中に亡くなった九羽の鵜の労をねぎらい、感謝の念をこめた鵜供養会が鵜塚に於いて二十日に営まれました。

超大型台風の本土上陸などで懸念されていた天候も青空が見える好天に恵まれ、六名の鵜匠と岐阜観光協会の関係者、俳句関係者など数十名の参加がありました。

先ずコンベンション協会の方が台風十九号の被災地へ見舞の言葉を述べられ、つづいて三人の僧の読経の中、鵜匠及び観光協会の関係者の焼香がつづき、俳句関係者を代表して俳人協会岐阜県支部・藤田真木子副支部長が焼香されました。

その後会場近くの長良河畔へ移り、短冊流しをしました。夜来の雨でふくれ上った川の岸につながれた鵜舟に篝火が焚かれ、秋の日に映える衣の僧の読経の中、それぞれに詠んだ句を短冊にしたため、川に流しました。短冊は流れの中に消えていきました。

午後からは「うかいミュージアム」に於いて恒例の鵜供養俳句大会が行われ、十五名が参加しました。藤田副支部長のご参加もあり充実した句会となりました。長年続いている句会ですが、毎年新しい視点の句が詠まれていることに汲めども尽きぬ俳句の奥深さを感じました。

（中島　瑞枝　記）

「鵜供養俳句大会」成績

大会賞

（公益社団法人　俳人協会岐阜県支部賞）

鵜匠と鵜一つ家に住む幾星霜　寺松美代子

優秀賞

行く秋の流れに消ゆる鵜短冊　後藤　昇子

＊　＊

俳人協会岐阜県支部副支部長

藤田真木子　詠

仏恩をあたためてゐる鵜供養会

貝寄風主宰

宮川　典夫　詠

鵜匠家の秋腰蓑を軒に干し

第十九回「芭蕉の道俳句大会」募集案内

俳人協会岐阜県支部では、岐阜市における芭蕉の足跡を偲び、令和二年も次のように俳句大会を計画いたしました。今回は、俳人協会評議員・井越芳子先生をお迎えし、親しく講演していただきます。会員にとって絶好の機会ですので是非ご参加いただきたく、また会員以外の方もお誘い下さるようご案内いたします。

期　日　**令和二年五月十六日（土）**午後一時　開会

会　場　じゅうろくプラザ・（二階）ホール（ＪＲ岐阜駅前）
岐阜市橋本町一の十の十一　☎〇五八―二六二―〇一五〇

講　演　俳人協会評議員・井越芳子　先生
「青畝の方法―光と音」

受　付　十時より十一時三十分まで（投句受付も同じ）

開　場　十時　昼食の用意はありません。各自お済ませ下さい。

投　句　・事前投句　雑詠（冬季・新年及び春季に限る）
事前投句券を必要枚数購入し、貼付して投句してください。左記「申込」参照。受付期間は一月二十日より三月十日までです。
・当日投句（当日句には兼題があります。〔①薔薇　②点〕のうち、少なくとも一つを使用し、夏季の句とする。①の場合は、傍題も使用可。②の場合は、「点」の字を使うこと。）

選　者　井越芳子先生、岐阜県支部選者グループ

参加費　**当日大会参加　一〇〇〇円**（大会参加券を購入してください）

申　込　応募用紙に、**事前投句券と大会参加券**を貼付してお申込みください。
事前投句券（二句一組分：一枚一〇〇〇円）と**大会参加券（一〇〇〇円）**は、各結社の「大会実行委員」よりご購入下さい。（欠席の場合の返金はいたしません）

投句上の注意　近くに実行委員がいない場合は、事務局にお尋ね下さい。
投句は**自作の未発表作品**に限ります。類句、類想句、模倣句、二重投句、他人の添削を受けた句は賞を取り消します。賞が取り消された場合、氏名が公表されることがあります。
俳句に**ルビは振らないでください**。作品の著作権は作者に属しますが、大会入選句集や支部会報及び俳人協会俳句文学館への掲載には同意したものとみなします。

問い合わせ　（午後九時以降の電話でのお問い合わせはご遠慮下さい）
郵便の場合は、返信用葉書を同封して下さい。
〒五〇七―〇〇二三　多治見市小田町一の八　荻原正三
電話　〇九〇―四八六五―六三六二　メール／szogwr-18@email.plala.or.jp

《句集紹介》

波郷没後五十年によせて

富田　澄江

令和二年の俳人協会俳句カレンダーの表紙を飾るのは、石田波郷の次の二句である。

初蝶や吾が三十の袖袂　　波郷
鶏頭の澎湃として四十過ぐ

三行に認められた書は、一気に運ばれた筆の勢いと流麗さが相俟って、句に込められた作者の気概が真っ直ぐに伝わってくる。

平成三十年十一月二十一日、結社「鶴」による波郷五十回忌法要が深大寺で営まれ、佐藤をさむ氏夫妻と共にその席に連なった。

波郷忌の柿ねんごろに剥きにけり　をさむ
波郷忌へ三日の旅の晴れにけり　夏子
白樫の冬日がぬくし惜命忌　澄江

そして令和元年十一月、俳句雑誌各誌が波郷没後五十年の特集を組み、あらためて石田波郷の偉大さをかみしめている。

俳人協会カレンダー表紙

というのも私は当初波郷という人を知らなかった。というより結社の存在を知らなかった。絵手紙展で偶然目にした佐藤をさむ氏の俳句に導かれて気がついたら「鶴」の会員になっていた。

話は波郷存命中に遡る。

かつて岐阜にわずか四名ながら熱心な「鶴」の会員がおられた。昭和二十八年「鶴」の復刊を知って逸早く波郷門に入いられ、波郷選を受けられた人達である。昭和四十四年師の逝去という大きな悲しみの中、四人で手作りの「石田波郷追悼特集」を編まれた。師とのそれぞれの思い出を綴り、自選各十五句を以って追悼となされている。この冊子は波郷一周忌の霊前に捧げられたという。

この度波郷五十回忌法要に参列して、正に師の命終に向き合った人達が身近におられたということに深く思いを致し、あらためて師系の縁の不思議を思った。

佐藤をさむご夫妻と筆者

山口誓子とラグビー

藤田真木子

ラグビーのワールドカップが日本で開催され、日本代表は8強入りを果たした。彼らのスローガン「ONE　TEAM」が二〇一九年の流行語大賞に選ばれた。ラグビーというスポーツが一気に広まり、日本中が熱狂した年だったように思う。私もテレビ観戦ではあったがにわかファンとなってしまった。

ラグビーの試合を見ていて、最初に気になったのがお団子のように固まって選手達が押し合って楕円球を奪う姿だった。タックル、倒れ、折り重なる。この場面を山口誓子は、

ラグビーの諸脚球をかくすところ　『黄旗』昭8
ラグビーの密集胸を腕を踏む　同前

と詠んでいる。脚はボールを隠すところ、密集にスクラム・ラック・モールという形があることを知ったら、試合がちょっと見えるようになった。特にスクラムが重要だと知って、頑張っている選手に私も思わずガンバレと言ってしまった。サモア戦では、モールがずるずると動いていく、そして、トライとなった。このときは私もガッツポーズ。

誓子はスクラムとトライの場面を

スクラムは押しあふ掌にて地を押へ　『方位』昭32
スクラムを出し球ああいま誰も触れず　同前
トライ見て思はず吾は片手挙ぐ　同前

と詠んでいる。「押しあふ掌にて地を押へ」の表現から、選手達の力と力の競り合いが伝わってくる。二句目の「ああ」からは、誓子の思わず叫んでしまった声が聞こえてきそうである。「思はず吾は片手挙ぐ」には熱い心と喜びが表されている。

誓子には、ラグビーを詠んだ句が五〇句ある。ラグビーの句から、自分の見たもの、体験したものを詠むという俳句の詠み方の大切さを改めて学んだ。

山口誓子先生と筆者

県内結社近況

天衣

主宰継承により理念を継続

荻原　正三

「天衣」は平成六年二月、「狩」白羽同人の岬雪夫により岐阜県で誕生した。師系は「狩」の鷹羽狩行。「天衣」創刊号は九句会、会員は一二四名で薄い冊子であった。理念は「俳句は自然と人間のふれあいから生まれる心の詩」。俳誌は隔月の発行。俳句を楽しむ人の輪が少しずつ広がってきて、現在は三七句会、四〇〇名ほどである。

会員数も多くなり仕事も増えたので、仕事を分担する体制をとり運営している。主なものは顧問・編集・校正・総務会計・俳誌発送・行事等で協力しあって運営している。

岬雪夫主宰の高齢化と体調により、令和元年から足立賢治に主宰が継承され、岬雪夫は名誉主宰となる。

足立新主宰は天衣大会の挨拶で、「天衣の会員の強い思いを感じる。現職で休日や仕事の遣り繰りをして俳句を続けている人、家事と俳句の両立、退職者の生きがいとしての俳句、手が不自由になり代筆で投句をしている人など、皆様の俳句に対する熱い思いを感じて、ここで『天衣』を無くする訳にはいかない。また主宰を継承するにあたり、師系を見ると、古くは『天狼』の山口誓子、『狩』の鷹羽狩行、『天衣』の岬雪夫の俳句に対する気迫を思うと、主宰を継承するのは大変重いが、頑張って行く。」と主宰を継承した決意を述べる。

句会は現在三七句会あり、西は大垣から岐阜、美濃加茂、多治見を経て、東は中津川まで広範囲に点在している。県内の句会には年四回主宰による書面の添削指導があり、年一回は現地の句会に主宰が直接出向いて、対話と指導を行う。県外では東京・京都・和歌山にも句会がある。各句会には雪（上位）同人を指導に当たらせ、俳句の上達と句会の活性化を図っている。

「天衣」の主な年間行事は、二月に句会代表者会議。八月に美濃加茂市のホテルで俳句大会、これには約一五〇名が参加し、句会と会員相互の親睦を行う。一〇月に天衣賞・天花賞の俳句コンテスト。

隔月刊の俳誌では、特別作品、作品鑑賞、課題句、エッセイ、部外入賞作品の紹介、俳句クイズなどを掲載し充実を図っている。

「天衣」のモットーである「自然にやさしく、人間にあたたかく、心眼・詩眼・句眼を磨き、俳句の喜びを、人生の喜びへ。」を新主宰も承継し、引き続き天衣俳句の発展に尽力している。

白馬より引きし田水を落としけり　岬　雪夫
水澄むや推さるるままに一誌継ぎ　足立　賢治
山滴る俗世いつしか失せゆけり　橋場　きよ
春宵の手にあやふやな紙コップ　川島三栄子
受付の百合よく匂ふ夜勤かな　武知　徹
柚子風呂や月も地球も浮いてをり　荻原　正三
藁塚の少なくなりし輪中村　遠藤　幹郎
時雨きて時雨とぎれて浮御堂　各務　鐐三
白梅や礼拝堂に鐘が鳴り　古田　雅通
自転車の籠にラケット風光る　竹内すま子
しばらくは気がつかぬほど春の雨　伊藤ふみ子
ま夜中の厩舎より音春兆す　田口千恵子
鼻息を顔にかけられ厩出し　鈴木　朋魚
かはきゐて風の軽さの古巣かな　曲直瀬弘子
蛇穴を出てここよりは通学路　荻原八重子
夕暮の茅の輪ささくれ立ちてをり　加藤いつ子
背伸びしてポストにとどき夏帽子　後藤　政子
雲水の寝起き一畳安居寺　加藤　雅代
大年の東京駅の発車ベル　渡辺　美晴
寒ぼたん緋色は思ひつめしいろ　鈴木ミヨコ

編集後記

◇あけましておめでとうございます。

令和最初の新春です。気持ちも新たに、俳句のある人生を共に楽しみましょう。

◇第十九回芭蕉の道俳句大会が、五月十六日（土）に岐阜駅西隣のじゅうろくプラザで俳人協会評議員の井越芳子先生をお迎えして開催されます。

ご参加をお待ちしています。

◇今年も会報発行にあたり、ご理解とご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

（藤田・小野木・舩戸）